

八戸市の幼保小連携推進事業の歩みとこれから

1. 事業の目的＝ 「子どもの成長の連続」

八戸市教育プランえんぶりっこプロジェクト「就学前教育の充実と推進」のため、幼児期の保育から小学校の教育への円滑な接続を図る。

- ①幼稚園教員・保育士・小学校教員による就学前教育・小学校教育についての相互理解の促進
- ②就学前教育から小学校教育への円滑な接続を図る上で求められる指導内容・指導方法の在り方についての実践的研究
- ③子育てや家庭教育に対する支援の在り方についての研究

2. これまでの歩み

平成16年度

- ・幼・保・小の各研究団体への打診
- ・幼小連携協議会授業参観への参加
- ・幼保小代表者会議・幼保小連携推進協議会の立ち上げ
- ・実態調査（アンケートによる意識調査・集計）

平成17年度

- ・共通指導項目「あいさつ・きまり・いのち」
- ・代表者会議（年2回）……方向性や課題について協議
- ・全体研修会（年1回）
 - 教育長講話
 - 「障害児保育の取り組みについて」「給食時間を通して幼児期から小学校への連携を考える」「地域の保育所との連携について」の発表
- ・各地区会の取り組みをまとめ、報告集作成

平成18年度

- ・共通指導項目・代表者研修会・全体研修会・報告集作成は継続実施
- ・全体研修会の内容
 - パネルディスカッション「幼保小連携で大切なこと」
 - 「食に関わる子どもの状況」「幼稚園における食育を考える」「生活科を生かした交流活動」の発表

平成19年度

- ・共通指導項目・代表者研修会・全体研修会・報告集作成は継続実施
- ・全体研修会の内容
 - パネルディスカッション「保護者とのかかわりの中で大切なこと」
 - 「食に関わる体験活動」「本物の味を教えたい」「食育推進計画」の発表

平成20年度

- ・共通指導項目・代表者研修会・全体研修会・報告集作成は継続実施・
- ・全体研修会の内容
 - 基調講演「発達障害の早期発見・早期支援」
 - 「保護者支援」の視点から、健康増進課・幼稚園・保育園が発表

3. 成果と課題

< 成果 >

指導の上での成果	<ul style="list-style-type: none">・情報交換の回数が増え、日々の指導に役立てられている。・園児の様子や情報を知ることが、新入生の学級編成や入学後の指導に役立つ。・発達段階における特性を理解でき、子ども理解が深まる。指導に役立つ。・幼・保のきめ細かな指導から、小学校教員が学ぶべきことがある。・特に支援が必要な児童に対して、入学当初から適切な対応を考えることができる。・参観日に気兼ねなく訪問できるようになり、卒園児の様子を参観しやすくなった。・園と学校それぞれの立場で指導すべきことを話し合い共通理解が図られた。・授業後の話し合いがより具体的で、手をかけるべきところ、かけすぎのところがはっきりし、教師の研修として有意義だった。・小学校の児童の情報も知ることができ、予防的な生徒指導の一助となっている。
子ども自身のため	<ul style="list-style-type: none">・入学時の安心感、学校への期待感につながる。・1年児童は上級生になったという意識が高まり心の成長が見られる。・学習が活かされ満足感が得られる。・卒園した園の先生方に授業参観していただくことで励みや刺激になっている。・6年生による訪問は自分たちの振り返りや将来についての考えに大いに役立った。・園児と児童の交流の後、絵やお手紙などの交換も行われるなど、子供同士の交流の輪が大きく広がった。・兄弟のいない子も小さい子への接し方を工夫するようになった。
保護者	<ul style="list-style-type: none">・保護者の不安感を和らげることができる。・保護者との信頼関係の構築にもつながる。・教育講演会を保育園と共催することにより、各家庭への一貫した教育的啓蒙を図ることができる。

< 課題 >

	<ul style="list-style-type: none">・情報交換や交流学习等の時間の確保、日程調整が双方で難しい。・年度途中で計画を入れるのではなく、年度始めからの連絡が必要。・複数園との連絡調整が難しい・園と小学校の時間帯の違いから、参観時間が制約される。・地区内の園以外からの入学が多いので、すべての園と情報交換をすることができない・新入学児童がない場合や学区に園がない場合の、連携についての位置づけを明確にする必要がある。・情報交換や子どもの交流、保護者間の交流等の連携がまだ不十分である。・複数園からの入学なので、交流学习等の実施が難しい。・園児の来校の際に、安全面での配慮が必要である。・就学時健診前に訪問すれば、健診時の観察に生かせるのではないか。・園児数が多いので交流の持ち方を工夫する必要がある。・今年度限りで児童館が閉鎖されることになり、園児の移動やこれまでの蓄積等についておおいに心配である。・保護者との係わり合いをもつための手立てや工夫が必要である。・園と学校が話し合った内容で、園の保護者に誤った情報が伝わり誤解を招くことがあるので配慮したい。・管理職だけでなく、子ども、職員、保護者の交流も進める必要がある。
--	--

4. 特色ある取組事例紹介

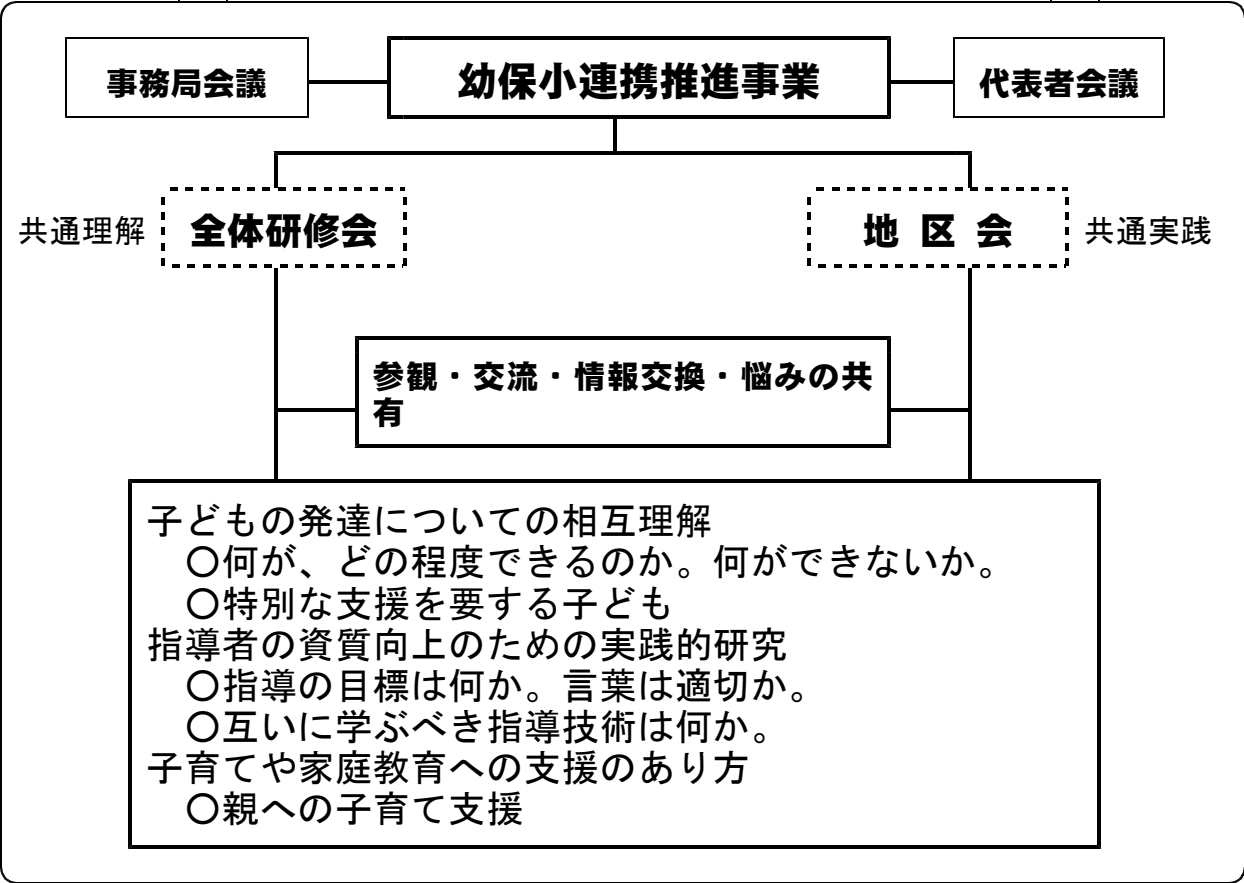
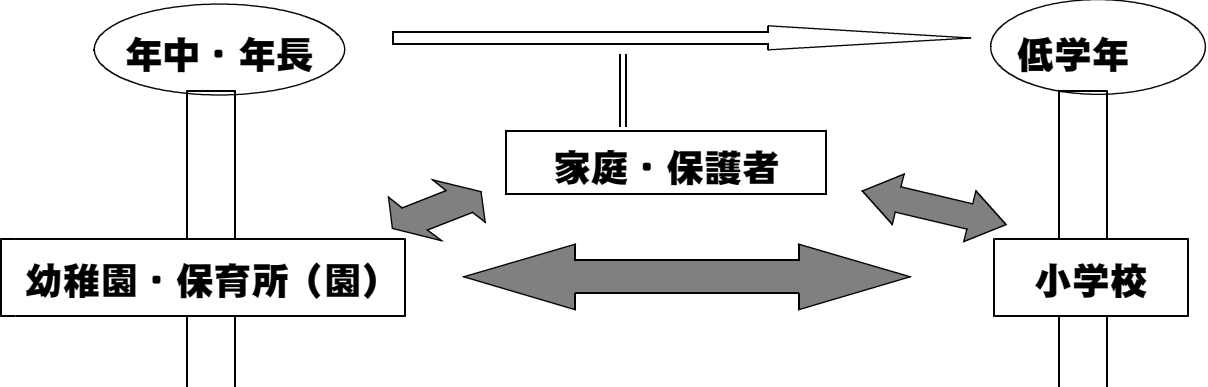
①	<p>保小連携を継続実施（多賀小学校と浜市川保育園）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校運動会に園児が遊技発表・保育園運動会で小学生が体操指揮 ・ 保育園運動会や夕涼み会に小学生を招待・小学校バザーへの保育園の協力 ・ 一年生と園児との交流会への招待
②	<p>大久喜地区幼保小連携協議会（大久喜保育園・金浜小学校・大久喜小学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校体育館で「よさこいと映画鑑賞の集い」
③	<p>長者小学校と五つの幼稚園・保育園</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 合同英語学習……就学児が小学校で英語を使ったゲームや歌を小学生と一緒に楽しむ
④	<p>西園小学校学区幼保小連携交流会 （西園小学校・第三千葉幼稚園・尻内保育園・穂園保育園・ことり保育園）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「あそびのくにへようこそ」……1、2年生が園児を楽しませる工夫をし、一緒に遊ぶ。交流後、感想や手紙を交換。
⑤	<p>島守小学校・島守保育所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全教職員で交流活動（保育所からは就学児の様子・小学校からは新一年生の学校生活の様子を伝え合う。） ・ 毎年行われる親子会議（小学校の全校活動）に、保育所の保護者も参加して、ともに学ぶ機会とする。
⑥	<p>三条小学校（第三千葉幼稚園・尻内保育園）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学3・4年生と園児の交流給食
⑦	<p>轟木小学校（轟木保育園）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童会と保育園が協力してプルタブを集め、地区の老人ホームに車いすをプレゼント
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼保小担当者研修会を開催。昨年度決定事項、連携の形態、運営上の係りや分担、日程等の確認、情報交換をする。年度末には、今年度の課題・来年度の計画・日程調整等を行う。 ・ 小学校、児童館のそれぞれの現状について、一人一人についての共通理解、連携して保育や指導にあたるべき事項を確認する。（朝食、読書、ゲームの時間等） ・ 校庭で実施した出前乗馬体験（三八支部獣医師会）に園児を招待する。 ・ 校外子ども会では、子どもたちの安全を見守ってくれる地域の方や子ども会世話人と子ども会単位の話し合いや交流を見学し、集団下校を行う。その後、3保育園の方々と連携情報交換会を行う。 ・ 町内のごみゼロ運動に児童と園児が共に参加してごみを拾い活動を行う。 ・ 地区のどんと祭で、園児と低学年児童による綱引き、玉入れ、紙飛行機飛ばし等を行い交流する。 ・ 児童会主催の集いを毎年開催。「ふるさと学習（生活科や総合的な学習の時間）」や各教科の学習でお世話になったゲストティーチャーの方々や、日頃お世話になっている地域の方々、各家庭のおじいさんやおばあさんに感謝する集いで、一緒にもちをついたり交流を図ったりする。これに保育園児も参加し、保育園と小学校との交流と、地域の人々との交流を図っている。

八戸市幼保小連携推進事業の全体像

～心身の健康と基本的生活習慣の育成を目指して～

【共通指導項目】

あ い さ つ
き ま り
い の ち



わくわくいっぱい いちねんせい ～小学校入学までに身につけさせたい力・必要な力～

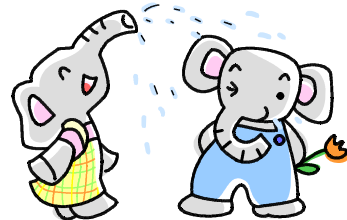
人格形成の基礎づくり (あいさつ・きまり・いのち)

① 基本的な生活習慣

- * あいさつや返事をはっきりと言う。
- * 準備や後片付け、衣服の着脱など、自分のことは自分で行う。
- * 正しい姿勢で立ったり、座ったりする。
- * 和式トイレが使える、使用後には手を洗ってハンカチで拭く。
- * 早寝・早起きをし、朝ご飯をきちんと食べる。
- * 好き嫌いをせず、ある程度の量を決められた時間内に食べる。
- * 箸の正しい持ち方、うがい・歯磨きの仕方を身につける。

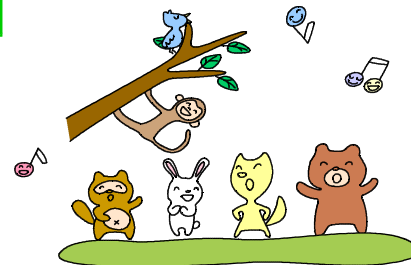
② 人との関わり

- * 相手の顔を見て話を聞く。また、聞いた内容を理解する。
- * 自分の気持ちを周りの人に言葉で伝えたり、話を聞いた感想を話したりする。
- * 聞き取りやすい速さ・声の大きさ・正しい発音で話す。
- * 自分の考えも話すし、相手の意見も受け入れる。
- * 進んで友達の中に入り、仲良く遊ぶ。



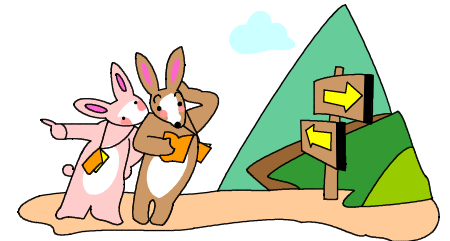
③ 気持ちのコントロール

- * 順番やきまりを守って遊ぶ。
- * 危険な場所に近づかない。危ないことをしない。
- * 思い通りにならないことや、いやなことでも、我慢して取り組む。
- * 勝手に席や場を離れないで活動し、周りに合わせて行動する。
- * 自分の仕事や役割を最後までしようとする。



学びの基礎づくり

- * 鉛筆を正しく持つ。
- * 自分の平仮名の名前を読んだり書いたりする。
- * 前後・左右などの位置関係や、大小・遠近などがわかる。
- * 絵本などに親しむ。
- * 10までの数がわかり、もののだいたいの形を描く。
- * はさみを使って切ったり、糊で紙を貼ったりする。



できるかな？

ひらがながよめるおともだちは、
 おうちのひとといっしょにかんがえてみよう。
 できることを、これからどんどんふやそうね。

あ	「おはよう」「こんにちは」「さようなら」とごあいさつできる。
い	しんせつにしてもらったとき「ありがとう」といえる。
さ	まちがったときは「ごめんなさい」とあやまれる。
つ	なまえをよばれたら、「はい」とおへんじできる。
き	じゅんばんやきまりをまもってあそべる。
ま	おともだちとなかよくあそべる。
り	たのまれたおしごとはさいごまでやりとおす。
い	あぶないところにちかよらない。あぶないことをしない。
の	はやね・はやおきして、ごはんをちゃんとたべる。
ち	からだをいっぱいつかってあそぶ。
せ	おはしをただしくつかってごはんをたべる。
い	ひとりでおしっこ・うんこができる。
か	ようふくをじぶんできて、ぬいだものをおかたづけできる。
つ	くつのみぎひだりをまちがえずにはける。
と	おともだちからなにかをかりるときは「かしてね」といえる。
も	おともだちとけんかをして、なかなおりできる。
だ	いやなことがあっても、ものをなげたり、ひとをたたいたりしない。
ち	おともだちがいやがることはしない。
ま	しずかにすわっておはなしをきける。
な	じぶんのなまえがよめる。
び	えんぴつやくれよんをちゃんともってかける。
	はさみでまるやしかくをつくれる。

※八戸市教育委員会の連絡先 (43) 9519

わくわくいっぱい いちねんせい



小学校入学までに
 身につけさせたい力・必要な力

いよいよ、来年は小学1年生。お子様のこれからの成長が、ますます楽しみです。
 幼児期は、生涯にわたる人格形成の基礎づくり、その後の学びの土台づくりのうえで、とても重要な時期です。
 入学後の毎日を楽しく充実したものにするためには、お子様が小学校の生活にスムーズにとけ込めるよう、みんなで協力することが必要です。入学までの1年間、お子様のよりよい成長のために、幼稚園・保育所(園)と協力し、ご家庭でも継続して取り組んでくださるようお願いいたします。

人格形成の 基礎づくり

あいさつ・きまり・いのち

学びの基礎づくり

学びの基礎となる
 豊かな身体感覚

